

★県北地域の感染症発生状況（6/17～6/23 福島県感染症動向調査より）

※詳細は「福島県感染症発生動向調査報告」で検索してください。

咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、RSウイルス感染症の流行、感染性胃腸炎の小流行が続いています。手足口病の流行が見られます。結核1件、百日咳1件報告がありました。

今月のトピックス

★夏は「蚊」にご用心！

5月中旬から10月下旬に活動する「ヒトスジシマカ」は、デング熱やジカウイルス感染症などを媒介します。それら感染症の原因となるウイルスに感染した人の血液を吸ったヒトスジシマカの体内でウイルスが増え、その蚊がまた、他の人の血液を吸うときにウイルスを移し、感染を拡げていきます。デング熱やジカウイルス感染症は主に熱帯や亜熱帯地域で流行しています。海外で感染した人が帰国して発症する症例がデング熱では年間200名前後、ジカウイルス感染症では10名程度報告されていますが、2014年には、東京都内の公園で、デング熱の国内感染が報告された以降、160名の国内感染の報告がありました。様々なウイルスを媒介する「蚊」を増やさないと、「蚊」に刺されないことが重要です。

※詳細は「厚生労働省 デング熱 ジカウイルス感染症 Q&A」を検索下さい。

ほくはヒトスジシマカ。公園の茂みや庭の木陰が大好き。水たまりは幼虫の増える絶好の場所だよ



デング熱とは？

- 潜伏期間：デングウイルスを保有する蚊に刺され2～14日（多くは3～7日）。
※感染した20～50%が発症
- 症状：38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、発疹。通常1週間前後で回復するが、稀に、患者の一部に出血症状を発症し、重症化する場合もある。

ジカウイルス感染症

- 潜伏期間：ジカウイルスを保有する蚊に刺され2～12日（多くは2～7日）。
※感染した約20%が発症。
- 症状：ジカウイルス病（軽度の発熱、発疹、結膜炎、関節痛、筋肉痛、倦怠感、頭痛など、2～7日で回復）。先天性ジカウイルス感染症（母体から胎児へ感染を起こすことがあり、小頭症など先天性障害を起こす可能性がある。）
- その他：性行為で感染する可能性がある。

蚊媒介感染症の予防法は？

- ◆やぶなど、蚊がいそうな場所に行くときは、肌を露出せず、虫除けスプレーを利用するなど、蚊に刺されない注意を！（虫除けスプレーは時々塗り直しが必要）。
流行地に渡航する場合は、現地で蚊に刺されないように注意！
- ◆扉や網戸の開閉を減らし、蚊取りマットなど殺虫剤を使用し屋内への蚊の侵入を予防。
- ◆草を刈る、植木鉢の受け皿等の水たまりをなくす等蚊が好む環境を減らす。
- ◆ジカウイルス感染危険地域から帰国した後は、下記①②にご留意ください。
①6ヶ月間は性行為時にコンドームを使用するか性行為を控える。
②パートナーが妊娠中の場合、妊娠期を通して①と同様の対応を。

感染危険地域は「FORTH 検疫所」と検索しご確認ください！



<手足口病が西日本を中心に流行しています！>

西日本を中心に手足口病の患者数が急増し、流行が広がっています。県北地域でも流行が始まりました。手足口病は乳幼児を中心に夏に流行し、患者の咳やくしゃみによる飛沫感染、手指や共用タオルを介した接触感染により感染します。予防には、手洗い、咳エチケットなどが有効です。また、タオルの共用は避けましょう。詳細は「福島県衛生研究所 感染症トピックス」「厚生労働省 手足口病 Q&A」を検索ください。

発行日 令和元年6月28日
発行元 福島県県北保健所
医療薬事課
住所 〒960-8012
福島市御山町8-30
電話 024-534-4113
ホームページ
検索キーワード 福島県県北保健所